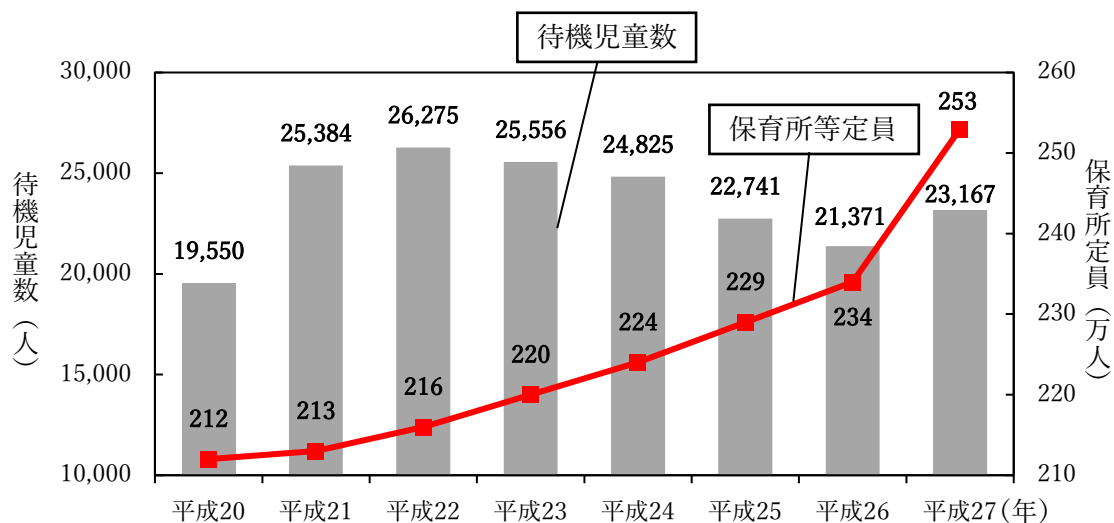
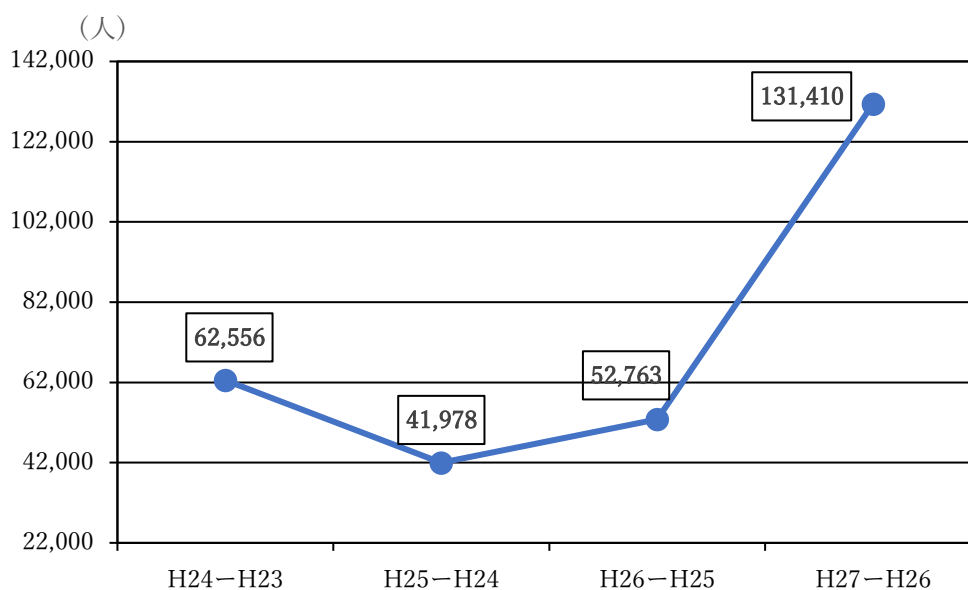


資料1 待機児童数と保育所定員の推移



平成28年版『少子化社会対策白書』65頁

資料2 (保育所等) 申込者数の対前年増加人数の推移



(注) 例えば、平成27年度の保育所等申込者数は、約247万人で、昨年度と比較して増加。(H26-25: 約5万人増→H27-26: 約13万人増)

厚生労働省「待機児童の状況及び待機児童解消加速化プランの状況について」

(平成27年9月29日公表) 1頁

<http://www.mhiw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098606.pdf>

資料3 年齢区分別の利用児童数・待機児童数

	27年利用児童	27年待機児童
低年齢児（0～2歳）	920,840人（38.8%）	19,902人（85.9%）
うち0歳児	127,562人（5.4%）	3,266人（14.1%）
うち1・2歳児	793,278人（33.4%）	16,636人（71.8%）
3歳以上児	1,452,774人（61.2%）	3,265人（14.1%）
全年齢児計	2,373,614人（100.0%）	23,167人（100.0%）

厚生労働省 Press Release(平成27年9月29日)

『保育所等関連状況取りまとめ（平成27年4月1日）』を公表します」5頁

<http://www.mhiw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603.pdf>

資料4 杉並区 保育園新設 公園転用に住民反発「遊び場つぶすのか」

杉並区が打ち出した待機児童対策を巡り、住民の反発が続いている。新設の保育園用地に区立公園が含まれているため、住民からは「子どものための遊び場をつぶして、子どものための保育園を作るのは矛盾しているのではないか」との声が上がる。一方、待機児童を減らすには施設整備も待ったなし。区長は3日、住民の代表者らと面談したが意見は平行線をたどった。両者の溝が埋まらないまま、建設計画は動き出そうとしている。

区は5月、現在の計画では来春に560人の待機児童が発生するとして、新たに保育施設11か所、1000人分の追加整備計画を公表した。このうち4カ所は区立公園を転用。来春までに計2000人規模の定員増を図る。

しかし、区立公園が対象となった地域の住民説明会は紛糾した。「地域にとって大切な公園だ」「子どもたちの遊び場がなくなる」など、怒鳴り声が上がリ、子どもたちが反対をアピールする紙を掲げる場面もあった。区側は待機児童対策の緊急性や、来春の開設には短い工期で済む用地を使わざるを得ないことなどを説明した。

(中略)

同公園は遊び場としてだけでなく、地域行事の拠点として親しまれてきたという。訳3000筆の反対署名が集まり、自治会副会長は「保育園を作ることに反対ではない。公園を残してほしいだけ」と訴えた。母親らの代表は子どもの遊び場をつぶして保育園を作る矛盾を指摘した。

毎日新聞 2016年6月4日 東京版